

表1 到達目標：下記の目標につき専門医としてふさわしいレベルが求められる。

基本姿勢・態度	
1	医の倫理・生命倫理について理解し、遵守できる。
2	患者、家族のニーズを把握できる。
3	インフォームドコンセントが行える。
4	他の医療従事者との適切な関係を構築し、チーム医療ができる。
5	守秘義務を理解し、遂行できる。
6	医事法制、保険医療法規・制度を理解する。
7	医療事故防止および事故への対応を理解する。
8	インシデントリポートを理解し、記載できる。
9	初期救急医療に対する技術を身につける。
10	医療福祉制度、医療保険、公費負担医療を理解する。
11	医療経済について理解し、それに基づく診療実践ができる。
12	眼科臨床に必要な基礎医学*の知識を身につける。 *基礎医学には解剖、組織、発生、生理、病理、免疫、遺伝、生化学、薬理、微生物等が含まれる。
13	眼科臨床に必要な社会医学**の知識を身につける。 **社会医学には衛生、公衆衛生、医療統計、失明予防等が含まれる。
14	眼科臨床に必要な眼光学の知識を身につける。
15	科学的根拠となる情報を収集できる。
16	症例提示と討論ができる。
17	学術研究を論理的、客観的に行える。
18	日本眼科学会総会、専門別学会、症例検討会等に積極的に参加する。
19	学会発表、論文発表等の活動を行う。
20	自己学習・自己評価を通して生涯にわたって学習する姿勢を身につける。
21	生物学的製剤について理解する。

22	医薬品などによる健康被害の防止について理解する。
23	感染対策を理解し、実行できる。
24	地域医療の理解と診療実践ができる(病診、病病連携、地域、包括ケア、在宅医療、地方での医療経験)。
25	先天異常・遺伝性疾患への対応を理解する。
26	移植医療について理解する。
27	アイバンクの重要性とその制度を理解する。
28	ロービジョンケアについて理解する。
29	視覚障害者に適切に対応できる。
30	後進の指導ができる。

角結膜	
31	間接法・染色法を含めた細隙灯顕微鏡検査で角結膜の所見がとれる。
32	アデノウイルス結膜炎の診断ができ、感染予防対策がとれる。
33	角膜化学腐蝕の処置ができる。
34	結膜炎の鑑別診断ができ、治療計画を立てることができる。
35	角結膜感染症を診断し、培養および塗抹に必要な検体を採取できる。
36	ドライアイの診断ができ、治療計画を立てることができる。
37	上皮型角膜ヘルペスの診断と治療ができる。
38	円錐角膜の診断ができる。
39	角膜移植の手術適応を理解している。
40	角膜知覚検査ができ、結果を評価できる。

白内障	
41	水晶体の混濁・核硬度を評価できる。
42	白内障手術の適応を判断できる。
43	角膜内皮細胞を計測、評価できる。

44	眼軸長を測定できる.
45	眼内レンズの度数計算ができる.
46	白内障手術の術前管理ができる.
47	白内障手術の術後管理ができる.
48	術後眼内炎を診断できる.
49	後発白内障を評価できる.
50	水晶体(亜)脱臼を診断できる.

緑内障	
51	眼圧測定ができる.
52	隅角を観察し評価できる.
53	動的・静的視野検査ができる.
54	緑内障性視神経乳頭変化を評価できる.
55	緑内障性視野障害を評価できる.
56	緑内障治療薬の特性を理解している.
57	急性原発閉塞隅角緑内障の診断と処置ができる.
58	原発開放隅角緑内障の診断ができる.
59	続発緑内障の病態を理解している.
60	緑内障手術の合併症を理解している.

網膜硝子体・ぶどう膜	
61	倒像鏡・細隙灯顕微鏡による網膜硝子体の観察ができる.
62	超音波検査ができ、結果を評価できる.
63	フルオレセイン蛍光眼底造影検査ができ、結果を評価できる.
64	電気生理学的検査ができ、結果を評価できる.
65	黄斑部の浮腫、変性、円孔を診断できる.

66	ぶどう膜炎の所見をとることができる。
67	糖尿病網膜症を診断でき、治療計画を立てることができる。
68	網膜剥離を診断でき、治療計画を立てることができる。
69	網膜動脈閉塞症を診断でき、治療計画を立てることができる。
70	典型的な網膜色素変性を診断できる。

屈折矯正・弱視・斜視	
71	視力検査ができる。
72	屈折検査ができる。
73	調節について理解している。
74	外斜視と内斜視を診断できる。
75	弱視を診断でき、年齢と治療時期との関係を理解している。
76	眼鏡処方ができる。
77	両眼視機能検査ができる。
78	斜視の手術適応を判断できる。
79	コンタクトレンズのフィッティングチェックができる。
80	屈折矯正手術の適応を理解している。

神経眼科・眼窩・眼付属器	
81	瞳孔検査ができ、結果を評価できる。
82	色覚検査ができ、結果を評価できる。
83	むき運動・ひき運動検査、Hess 赤緑試験ができ、結果を評価できる。
84	視神経乳頭の腫脹・萎縮を評価できる。
85	涙液分泌・導涙検査ができる。
86	眼窩の画像を評価できる。

87	半盲の原因部位を診断できる.
88	甲状腺眼症の症状を理解している.
89	眼球突出度を計測できる.
90	視神経、眼窩、眼付属器の外傷を診察し、治療の緊急性を判断できる.

他科との連携	
91	糖尿病患者の眼底管理、循環器疾患等の眼底検査が適切にできる.
92	他科からの視機能検査や眼合併症精査の依頼に適切に対応できる.
93	他科疾患の関与を疑い、適切に他科へ精査を依頼できる.
94	眼症状を伴う疾患群に精通し、適切な診断ができる.
95	未熟児網膜症等の治療の必要性が判断できる.
96	眼科手術にあたり全身疾患の内容と軽重を把握し、他科と協力して全身管理ができる.
97	眼科手術あるいはステロイド投与時の血糖管理を内科医と協力して行える.
98	全身麻酔が必用な眼科手術患者の全身管理を麻酔科医と協力して行える.
99	全身投与薬・治療の眼副作用、眼局所投与薬の全身副作用に注意をはらえる.
100	他科の医師と良好な人間関係を構築できる.